

基礎看護学

専門分野

授業科目	看護を知る実習	氏名	清水京子	開講年次	単位・時間
		所属	専任教員	1年次	1単位 30時間
		実務経験	臨床看護師		
実習目的	病院に入院している対象者の療養環境を整える看護師の役割を理解することができる。				
到達目標					
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の構造と機能について知ることができる。</li> <li>2. 療養環境の特徴を見学し、図示できる。</li> <li>3. 対象の療養生活の実際を知り、対象に適した療養整備ができる。</li> <li>4. 対象を尊重した態度で、対象に応じたコミュニケーションを実践することができる。</li> <li>5. スタンダードプリコーションが実践できる。</li> <li>6. 多職種について知ることができる。</li> </ol>				
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院の構造と機能を知ること、地域における病院の役割について考え述べることができる。</li> <li>2. 計測した療養環境から、自分にとって快適な環境と入院している対象の療養環境を比較討議することで、快適に過ごせる療養環境を提案することができる。</li> <li>3. 対象の生活療養に適した安全・安楽な具体的な注意事項を考え、環境調整することができる。</li> <li>4. 看護師と共に行動し、気づいた事や考えたことを討議し、対象に必要な日常生活援助を提案することができる。</li> <li>5. 対象とのコミュニケーションについて討議し、対象と信頼関係を築くための必要なコミュニケーションについて述べるができる。</li> <li>6. 病院内における感染経路別予防対策に気づいた事や考えたことを討議し、述べるができる。</li> </ol>				
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院を事前学習で文献やインターネットを活用し、様々な場所を調べて実習に臨むことができる。</li> <li>2. 病院探索、病棟探索で討議をしたことをもとに、課題に取り組むことができる。</li> <li>3. 臨地実習での疑問や気づきを自らテキストや文献で調べ、解決することができる。</li> <li>4. 対象者の療養環境を知るために、事前学習で文献を活用し、病院で働く人を調べることができる。</li> </ol>				
実習期間及び実習時間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間：臨地実習5日間</li> <li>2. 実習時間：原則として8：30～14：00</li> </ol>				
実習内容及び実習方法	<p>(実習内容)</p> <p>実習病棟のグループごとに実習担当教員と一緒に病院、病棟を探索する。 入院患者の療養環境を知るために、実際にベッドとベッドの間隔やベッドの高さなどを計測する。 看護師に同行し、療養環境調整やコミュニケーション、看護援助の実際を見学、及び一部援助を実施する。</p> <p>(実習方法)</p> <p>オリエンテーションで病棟の構造や特徴、病床環境、安全管理について説明を受ける。 看護師に同行し、看護援助場面を見学、及び一部援助を実施する。 ※詳細は「看護を知る実習要領及び実習オリエンテーション時配布資料を参照してください」</p>				
実習施設	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会医療法人 水光会 宗像水光会総合病院</li> <li>2. 宗像医師会病院</li> </ol> <p>左記2施設のいずれかで行う。</p>				
評価方法および評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「評価規程」及び「実習に関する規程」、「追実習及び再実習に関する規程」に基づいて行う。</li> <li>2. 看護を知る実習の実習状況を基に、評価表により100%評価とする。</li> </ol>				
テキスト・参考文献	<p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論 (メディカ出版)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ (メディカ出版)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度 (メディカ出版)</p> <p>基礎看護学技術Ⅰ、Ⅱ (医学書院)</p>				
留意事項	<p>看護学生となり、初めての病院実習です。看護師を目指すものとしてこれからの学習につながる重要な実習となります。実習担当教員や実習メンバーと確認しながら十分に準備を行い何事も興味・関心を持って実習に臨みましょう。</p>				